

妊娠中の精神的支え 産後うつを予防

富大研究、回復にも効果

富大学術研究部医学系の松村健太講師らの研究グループは、妊娠中に周囲からの精神的な支えが十分だった妊婦は、産後うつになりにくく、抑うつ状態にならなかった場合でも、自然回復が促される傾向があると示す研究結果を発表した。

環境省の疫学調査「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」に登録された8万8771人を対象に調査した。妊娠中期～末期において「精神的な支えとなる人がいるか」など、三つの質問をもとに、精神的な支えの程度を低い～高いまで4段階に分け、産後1カ月と6カ月の抑うつ状態を調べた。

成果は3月15日医学系専門誌「ジャーナル・オブ・アフエクティブ・ディソオーダーズ」に掲載された。